

『増補改訂 本願寺史』第4巻刊行にあたって（第7回）

## 第六章 教団の国際伝道 その概要

### ◎第六章の構成

本願寺出版社より刊行した『増補改訂 本願寺史』第4巻第六章では、戦後、本願寺の国際伝道がどのようにおこなわれたのかについてを地域別に叙述しています。その内容は次のような構成からなっています。

- 一 国際センター
- 二 北米・ハワイ
- 三 中南米
- 四 アジア
- 五 オーストラリア・ヨーロッパ

### ◎国際センターの開設

本願寺派は、敗戦によってアジア各地の布教拠点を一挙に喪失しました。日本の軍事侵攻に連動して教勢を拡大させてきたため、戦後しばらくは積極的な海外布教に着手することができませんでした。

国際センターの前身は、1942（昭和17）年に広瀬精一が設立した財団法人至心会（寮）です。広瀬は戦前より真宗国際伝道への強い熱意を懷いて活動し、1953（昭和28）年に至心会（寮）は宗教法人至心寺となりました。

1959（昭和34）年、至心寺の土地と建物が本願寺へ寄贈され、翌年には宗教法人本願寺至心教堂が発足しました。1971（昭和46）年、建物の老朽化のため教堂の土地建物が売却され、その資金によってより充実した国際伝道施設を設けることになりました。

1973（昭和48）年1月、本願寺国際センター設置規程が制定され、海外開教の進展をはかるため、本願寺国際センターを設置することが決定されました。その所掌事項は、①海外交流のための諸会合に対する便宜供与に関すること、②開教使の養成および再教育の実施に関すること、③聖典の翻訳・出版その他海外諸地域への文書刊行に関すること、④外国語会話教室の開設その他一般大衆への海外開教事情の啓発に関することなどでした。そして、11月に浄土真宗本願寺派国際センター（後に国際センターと名称変更）が本願寺門前の学林町に竣工し、国際伝道活動が推し進められていきました。

1974（昭和49）年には、本願寺国際センター内に翻訳委員会の前身となる翻訳研究部が発足しました。個別におこなわれてきた聖典翻訳の不統一を克服して、伝道教化の基礎となる公認の英文真宗聖典を編纂することが目的でした。こうして即如宗主の法統継承を機縁とし、宗門発展計画の一環として、1978（昭和53）年より英文真宗聖典の翻訳・出版事業の推進に取り組むことになりました。

2012（平成24）年2月10日、新たに国際伝道に取り組むための基本法規として国際伝道推進規程が制定されました。同規程では、各開教区（北米・カナダ・ハワイ・南米）には教団、海外別院、開教区寺院またはこれに準ずる団体を置くことができるとなりました。また、総局は開教区のほか、特に国際伝道の促進を図る必要があると認められる地域を、開教地として指定し、適正な規模に発展した際は、これを開教区とすることができると定められました。

2019（平成31）年度末段階で、開教地として指定を受けているのは、オーストラリア（平成5年指定）、メキシコ（平成6年指定）、台湾（平成13年指定）、ネパール（平成18年指定）の4地域です。また、ヨーロッパ開教地区においても新たな伝道活動が展開されつつあります。今回は、ハワイ開教区、台湾開教地、ヨーロッパ開教地区の動向について述べていきます。

#### ▼ハワイ開教区

戦後、開教使の多くがアメリカ大陸内陸部に設けられていた収容所からハワイへ戻り、日曜礼拝が再開されました。また、サンデースクール（日曜学校）、YBA（仏教青年会）、ボーイスカウト、日本語学校などの活動が盛んにおこなわれるようになりました。1952（昭和27）年2月から4月にかけて、勝如宗主・嬉子裏方が各島の寺院・仏教会を巡教され、25か寺（別院含む）で8千295人が帰敬式を受けました。

ハワイ開教区において特筆すべきは、プロジェクト・ダーナ運動です。これは婦人会運動を起点に展開したもので、布施（ダーナ）の精神を基調とし、高齢者や障がい者を支援するボランティア活動を指します。また、1972（昭和47）年には英語伝道の一環として仏教研究所（Buddhist Study Center）が設立されたり、2003（平成15）年には、仏教教育を目的として全米初の仏教系高等学校であるパシフィック・ブデリスト・アカデミー（Pacific Buddhist Academy）が開設されました。

#### ▼台湾開教地

戦前の台湾には、60にも及ぶ本願寺派の寺院・布教所が存在していました。しかし、敗戦によって、全ての日本仏教寺院が台湾の国民政府に接収されることになりました。そのようななかで、陳銘芳（ちんめいほう）は、反日感情の強い戦後の台湾にあって浄土真宗の教えを守り、伝道するという信念のもと、1953（昭和28）年、台

中市の中心部に光明寺を設立しました。1971（昭和46）年には庫裏・書院の落成式ならびに灌仏会がおこなわれ、勝如宗主が出席されました。

その後、光明寺では新本堂の建設計画が進められました。1982（昭和57）年、陳は新本堂落成を前に没しましたが、その志を受け継いだ長男の一信が、翌年に光明寺新本堂落成法要を修行しました。法要には勝如宗主も出席し、法要後に帰敬式もおこなわれました。

また、1992（平成4）年、台中市郊外の土地に光照寺の建設が提案され、1999（平成11）年6月に着工しました。しかし同年9月21日、台湾中部を襲った大地震により、工事の中断を余儀なくされました。多くの困難に直面しながらも、現地門信徒の固い決意と本願寺をはじめとする日本の諸団体から支援を受け、2001（平成13）年2月に本願寺も、台湾を開教地に指定し、陳一信を初代開教事務所に任命しました。そして、2003（平成15）年に光照寺が完

成し、翌年3月8日には即如宗主親修のもと光照寺落成・台湾開教事務所開所慶讃法要が修行されました。

#### ▼ヨーロッパ開教地区

ヨーロッパにおける伝道は、1954（昭和29）年11月、ドイツ・ベルリンのハリー・ピーパーが勝如宗主のもとで帰敬式を受式したことに始まります。1956（昭和31）年にピーパーは仲間とともにドイツ浄土真宗協会を創設し、翌年6月に本願寺は同協会を公式な会として登録しました。

1970（昭和45）年には、スイスにも布教拠点が築かれました。カトリック司教であったジャン・エラクルは、ピーパーとの文通を機縁として浄土真宗に帰依し、ジュネーヴ市郊外の一民家にスイス浄土真宗協会を創設しました。1973（昭和48）年に勝如宗主がスイスを訪問されたのを機に、エラクルは寺院建立を決意し、1982（昭和57）年にジュネーヴ北部の地に信楽寺を創建しました。

2000（平成12）年時点で、ヨーロッパ開教地区での本願寺派の布教拠点は、ドイツ浄土真宗協会、スイス浄土真宗協会（信楽寺）、ベルギー浄土真宗協会（慈光寺）、オーストリア浄土真宗協会、英国浄土真宗協会でしたが、その後も、アラスカ浄土真宗・白蓮華センター（妙光院）、ポーランド浄土真宗サンガ、ルーマニア浄土真宗協会（他力道場）、ハンガリー浄土真宗サンガなどが次々に設立されて、浄土真宗の教線が拡大しつづけます。

本願寺史料研究所

『増補改訂 本願寺史』第4巻

8800円（税込・送料別）

A5判、908ページ

※ご注文は本願寺出版社まで